



東京部会 (第 53 回)	
日 時:	2012 年 11 月 20 日 (火) 19:00-21:00
場 所:	日本大学経済学部 7 号館 13 階会議室 3
参加者:	篠原(同志社大)、野間(同志社大)、加藤(日大)、中川(日大)、栗原(東洋大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、高橋(桜修館中等教育)、杉田(千葉西高)、升野(筑波大学附属中学校)、大川(川口市里中)、鈴木(日本経済教育センター)、石山(東証)、中沖(清水書院)、宮尾(筑波大)[順不同]
【内容要旨】	
<p>1. 新井先生より、配布資料「東京部会レポート」に基づき、2013年の「夏休み経済教室」について、カレンダーが決定され、会場も準備進行中との説明があった。篠原先生の示唆により、一つの試みとして、これまでのように2時間近くを1人の経済学者が話し続けるのではなく、半分に割って、前半は大学の教授が経済的な話をして、後半はそれを受けて中高の先生方が教育現場に即した話をするという組み合わせを、東京などで行うこととなった。</p> <p>2. これからの予定として、さしあたりのWSは、2月16日(土)13:30~16:30、埼玉の川口市立里中学校で行う。内容は、「授業提案(体験的な活動を取り入れた経済の授業)」と「経済学者が教科書を読み解く」。問い合わせは、大川先生まで。その他のWSについては現在検討中。一方、総会(3月23日於京都)については、法教育と経済教育の対話その2、「労働市場:若者の働く場の問題をどうとらえ教えるか」をテーマに、コーディネーターの中川先生を中心に準備中で、安藤(経済学者)、野川(法学者)の両氏に加えて実践家2名(大阪から選ぶ予定)が、冒頭での中川先生の問題設定に対して簡単に意見を述べた後に、ディスカッションを行う。より具体的な進め方と内容は、2月末までに固めることとなった。</p> <p>その他、資料として、「金融経済教育フォーラム」(12月28日於東京証券取引所)のちらしが配布された。</p> <p>3. 升野先生より、筑波大学附属中学校の社会科で行われた学習活動についての配付資料「生産のしくみ～生産活動のしくみの理解を通して、利潤や賃金等の公正について考える～」をもとに、授業内容の説明があった。具体的に「たこ焼き屋」の経営を考え、利潤とは何か、誰のものか、どう増やすか、どう分配するかなどを生徒に考えさせ、それとの関係で「効率」と「公正」を議論するという内容。その説明後の議論では、中学生にはかなり難しいが、うまく指導上の工夫をすれば「経済」への関心を高めることができるという意見が多かったが、他方、「生産のしくみ」の問題と「効率対公正」の問題とは分けたほうがよいという意見もあった。いずれにしても、教える側の力量と生徒のレベルが問われる内容。</p> <p>4. 宮尾より、3つの配布資料があり、以下の説明があった。資料1「じゃんけんゲーム:囚人のジレンマについて」では、大学で「じゃんけんゲーム」を1度だけでなく2度行った結果が報告された。2度目は、協調行動が予想ほどは増えなかったが、それでも終了直前まで協調を続け、最後に相手を出し抜く戦略を取った学生が一番高い点を獲得したという説明があった。資料2「公共財・タダ乗りのゲームについて」では、最近発行された『実験ミクロ経済学』(東洋経済)から公共財についての実験のやり方と結果を取り上げ、その結果を学生たちに検討させ、タダ乗りを避ける方法を提案させたことが報告された。最後に資料3「東京駅の復原事業:誰が費用を負担?」をもとに、高さや容積率の規制を前提として、その規制を一律に適用するのではなく、許容額の取引を許すことのプラスの具体例が解説された。そのような取引によって、規制の目的を全体として満たした</p>	



がら、個々の経済活動に対する制約をできるだけ少なくすれば誰にもプラスになるという点が強調された。
(文責:宮尾尊弘)

次回開催予定: 12月18日(火)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部7号館13階会議室)。議題は、3月の大会および夏の経済教室の内容の詰め、参加者からの活動報告、その他。